

シネンシス系スターチスの春植作型の生産安定

（令和3年度 空知地域農業技術支援会議プロジェクト課題）

対象：北育ち元気村花き生産組合（248戸）

1 活動の背景

地域の現状

◇北育ち元気村花き生産組合では“シネンシス系スターチス”は主力品種であり、販売高4億1千万円（令和3年）と国内を代表する産地である。

地域の課題

◇現地では様々な品種が栽培されており、未抽苔株や芯止まりする花茎の発生などの障害が見られている。安定生産を行うためには、品種特性の確認と栽培方法の確立が望まれている。

課題解決に向けた取り組み

- ◇定植後の高温遭遇による影響を調査
= 品種別未抽苔発生割合（定植後の高温遭遇）
【現地調査：深川市・沼田町・妹背牛町】
- ◇低pHによる生育への影響を確認（= 土壌pH）
【深川市農業センター：ポット試験】



写真1 未抽苔株と正常株

2 活動の経過

◇ 定植後の高温遭遇



写真2 現地での温度計測



表1 品種別の未抽苔発生数・率

農業者	品 種	株数	未抽台 数	未抽台 率
A	パイナップルD	780	2	0.26%
	ブリスホワイト	780	8	1.03%
B	ブリスホワイト	990	12	1.21%
	キノラパン	180	3	1.67%
D	ブリスホワイト	380	5	1.32%
	キノラパン	500	20	4.00%
	キノミルク	100	14	14.00%
	クールダイヤモンド	100	0	0.00%
	フランボワーズ	100	3	3.00%
	キノレモン	100	3	3.00%

（参考）シネンシス系スターチス生育適温：15℃~20℃

農業者	開始日	終了日	計測期間 (日/時間)	最高温度	最低温度	平均温度	30℃超時間	40℃超時間
D	6/3	7/16	35 / 840	49.3	12.0	26.3	281	50
D	6/14	7/19	35 / 840	42.2	11.5	25.8	170	7
B	5/28	7/7	40 / 960	38.1	3.7	23.8	129	0
A (ハウス①)	5/28	7/7	40 / 960	47.2	6.2	25.2	179	32
A (ハウス②)	5/28	7/7	40 / 960	49.2	6.3	25.7	247	72
C	5/28	7/7	40 / 960	40.6	4.4	24.3	203	3

★ 未抽苔株の発生

供試7品種内で、キノミルクの未抽苔発生率は15%と高く、クールダイヤモンドの未抽苔発生率は0%であった。他の5品種の未抽苔発生率は3%以下であった。

★ 高温遭遇

個々でハウス設置状態は異なるが、計測期間中30℃を超える時間は150時間を超えた。また、一部のハウスでは40℃を超える時間もあり、すべてのハウスで高温に遭遇した。

◇ 土壌pH

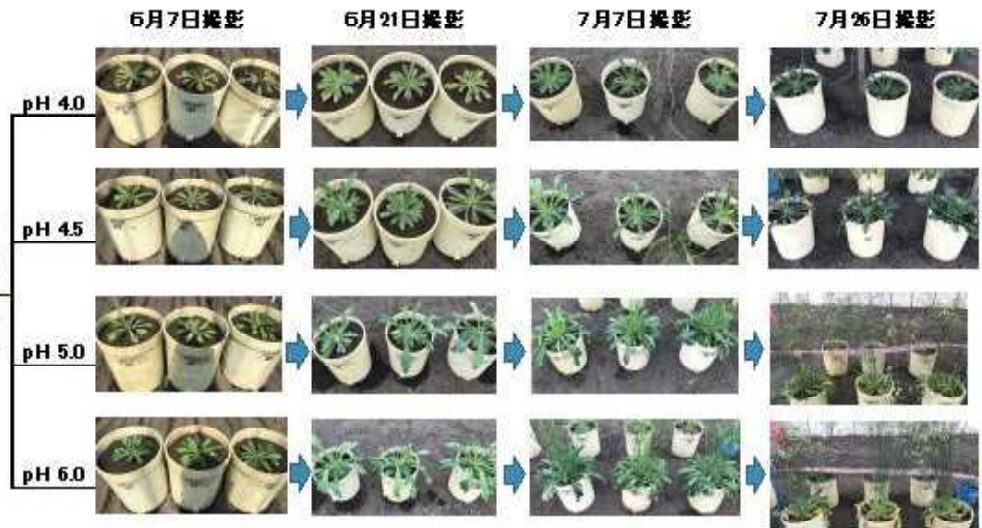


写真3 pH別試験の生育推移

参考) 適正 pH 6.0~6.5 定植: 5/20 → 採花: 7/29

- ★ pH 4.0 → 定植2週間後から「葉」にまだらの黄変症状が発生し、徐々に下位葉から枯れ上がり、生育は停滞した。= **未抽苔株 (3/3ポット未抽台)**
- ★ pH 4.5 → 定植3週間頃から下位葉に黄変が発生し、定植1ヶ月後には、すべての葉縁に萎縮が発生し、生育は緩慢となった。= **未抽苔株 (2/3ポット未抽台)**
- ★ pH 5.0 → 定植1ヶ月後から、下位葉に黄変症状が発生した。初期生育は緩慢であったが、気温の上昇とともに生育は回復した。
= **正常株 (3/3ポット抽苔=1ポット当たり立ち本数 17本)**
- ★ pH 6.0 → 定植から一番花の花穂色づきまで、良好な生育であった。
= **正常株 (3/3ポット抽苔=1ポット当たり立ち本数 21本)**

3 活動成果

◇ 定植後の高温遭遇



品種によって「抽苔」に差が発生しました!



★HBスターチス部会員に調査結果を示し、定植後の高温遭遇による未抽苔が発生しやすい品種の理解が進んだ。

◇ 土壌pH



★JA北いぶき花き生産者に、ポット試験を実際に見てもらうことで、土壌pH (pH適正化) の重要性が認識された。

4 今後に向けて

- ★ 春植え作型の安定生産に向けた支援 ⇔ 品種の選定etc...
- ★ 土壌分析を実施し、診断結果に基づいた適正pH調整への支援

未抽苔株“ゼロ”へ!